

## 令和元年度第1回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会次第

日時：令和元年9月2日（月）

午後1時30分～3時

場所：犬山市役所205会議室

### 1. あいさつ

### 2. 協議事項

(1) 犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会について（資料1）

(2) 犬山市生活支援体制整備事業の進捗について

第1層生活支援コーディネーター 河村政徳 氏

(3) 各団体からの活動報告等

### 3. その他

令和元年度第1回犬山市地域ケア・生活支援推進協議会資料

# 犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会 について

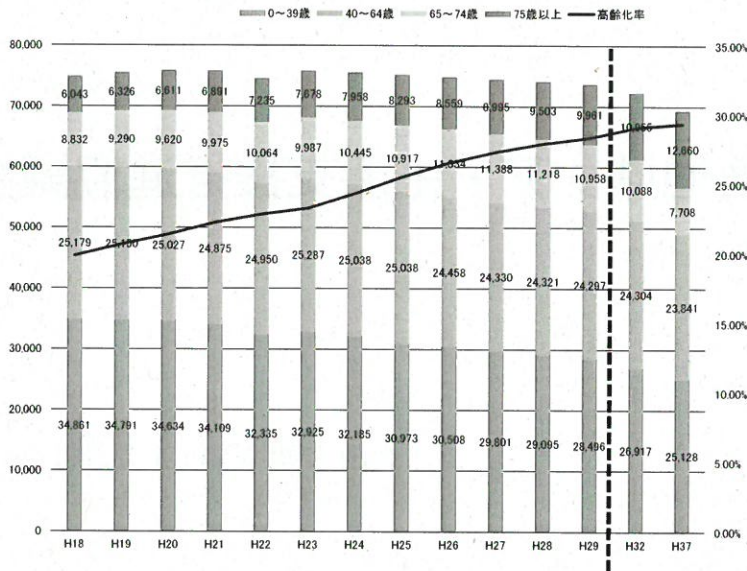
犬山市健康福祉部長寿社会課

1

## 1. 事業の背景（おさらい）

2

## 背景 1 : 人口構成の変化



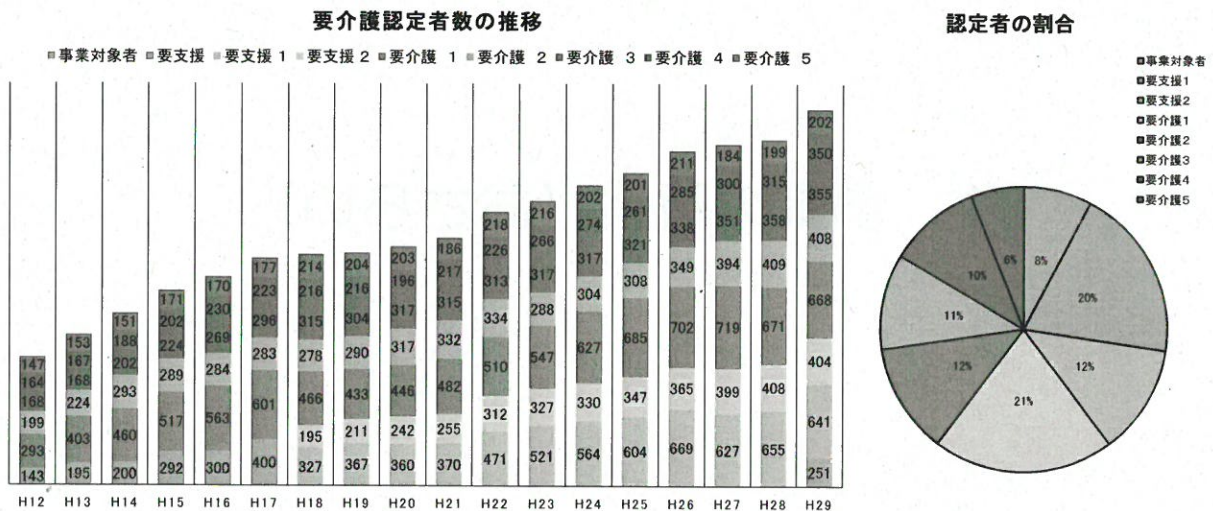
▼総人口はH23をピークに減少  
▼高齢化率は増加

⇒国の状況と同様、逆ピラミッド型の構造

長寿社会課事業概要

3

## 背景 2 : 要介護認定者数の増加

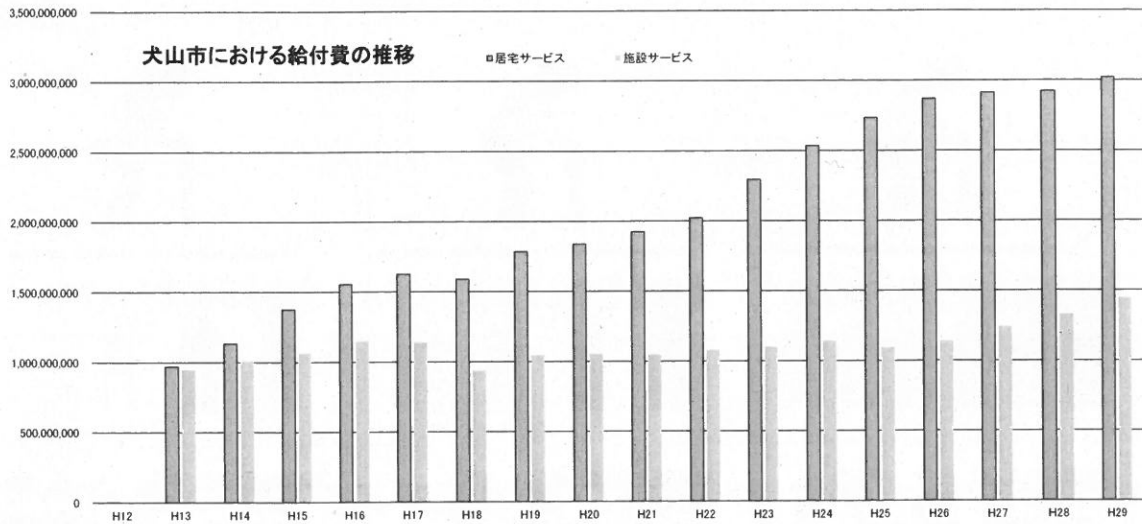


長寿社会課事業概要

H12~H17: 要支援の区分のみ  
H29~: 事業対象者区分増設

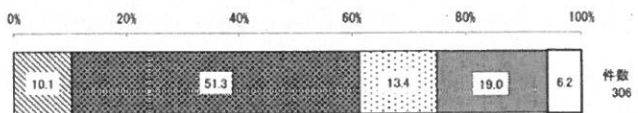
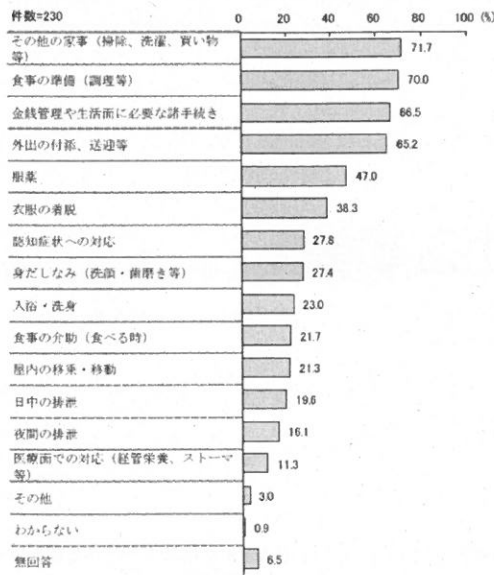
4

### 背景3：社会保障費の増加



5

### 背景4：在宅介護のニーズ



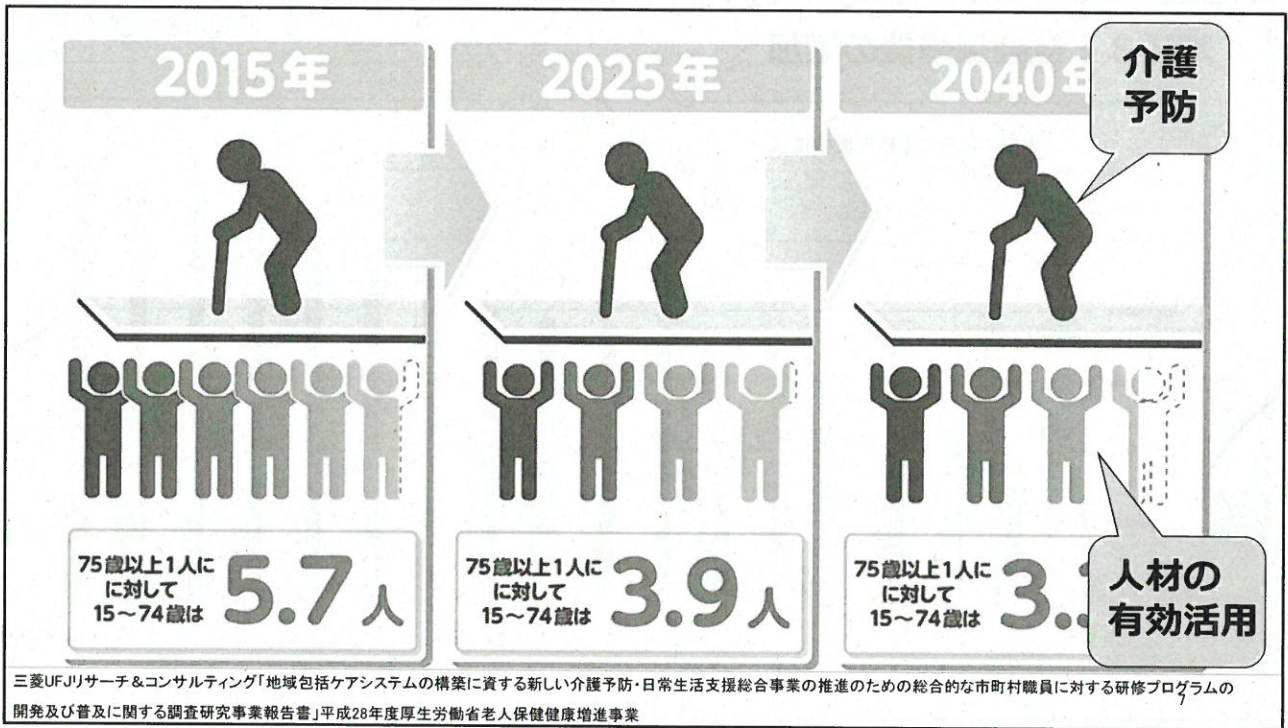
- 自宅で家族などに介護してほしい
- 自宅で介護保険サービスや福祉サービスを利用しながら介護してほしい
- 特別養護老人ホームなどの施設に入所したい
- わからない
- 無回答

▼自宅で生活したい割合は約6割  
 ▼日常生活の支援（掃除・洗濯・買い物・調理）が7割を超える

⇒専門職でなくても提供可能な支援を求めている

犬山市：高齢者福祉・介護に関するアンケート調査（H28年度実施）

6



## 2. 犬山市における事業

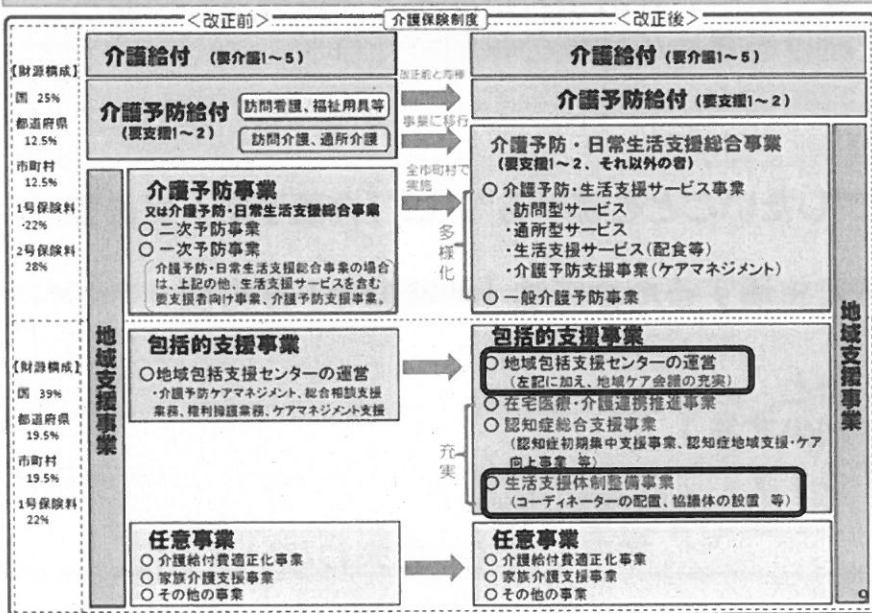
# 最終ゴールは地域包括ケアシステムの構築・・・

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。  
地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。



**重度な介護状態となっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための地域の体制づくり**

## 新しい地域支援事業の全体像



- ▼ 介護予防訪問介護・介護予防通所介護が地域支援事業へ
- ▼ 生活支援体制整備他が新設
- ⇒ 地域包括ケアシステムの構築を推進するための事業

## 犬山市における包括的支援事業

### 地域包括支援センターの運営 (地域ケア会議の充実)

- ▼平成29年度～
  - ・高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）を委託化
  - ・各地区高齢者あんしん相談センターの主任介護支援専門員が主体となり、個別会議の開催を推進

⇒個別会議の積み重ねから地域課題を把握

### 生活支援体制整備事業

- ▼平成27年度～平成28年度
  - ・在宅介護相談協力員（現在廃止）を対象に居場所づくりの研修を実施
- ▼平成29年度～
  - ・犬山市生活支援コーディネーターを配置（委託）
  - ・各地区高齢者あんしん相談センター管轄圏域に協議体を設置

⇒生活を支える仕組みづくりを推進

### 在宅医療・介護連携推進事業

- ▼平成24年度～
  - ・多職種連携会議（現いぬやまあんしんネットワークの会）を開催
- ▼平成29年度～
  - ・犬山市在宅医療・介護連携推進協議会を開催
  - ・びーよんねっと（ICT）導入

⇒入退院と在宅生活の切れ目のない支援を推進

### 認知症総合支援事業

- ▼平成27年度～平成28年度
  - ・医師会と協働し、認知症相談を実施
- ▼平成29年度～
  - ・認知症初期集中支援チームを委託により発足
  - ・認知症地域支援推進員を各地区高齢者あんしん相談センターへ配置

⇒早期発見・早期介入の支援を推進

11

**重度な介護状態となっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための地域の体制づくり**

→人生や生活の中で“したいことを続ける”には「介護予防」が必要

→“住み慣れた地域”で生活するためには「地域のか」が必要

**この事業を推進すると  
社会保障費が減少する！  
人材が充実する！！**

でも・・・  
本来の目的は見失わないように

12

## 重度な介護状態となっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための地域の体制づくり

これらは、一回整備すれば終わりではない。  
日々変化するライフスタイルや地域状況に応じて、活動やサービスの強化・開発がくり返し行われることが大切。

### 今はここ

...認知症の人の家に  
火災報知器を付けた...

住民自身が情報を得て地域づくりの大切さや方法を『経験』している  
まずやってみて、小さな成功体験を積んでいます

13

## 犬山市における包括的支援事業

### 地域包括支援センターの運営 (地域ケア会議の充実)

- ▼平成29年度～
  - ・高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）を委託化
  - ・各地区高齢者あんしん相談センターの主任介護支援専門員が主体となり、個別会議の開催を推進

⇒個別会議の積み重ねから地域課題を把握

### 生活支援体制整備事業

- ▼平成27年度～平成28年度
  - ・在宅介護相談協力員（現在廃止）を対象に居場所づくりの研修を実施
- ▼平成29年度～
  - ・犬山市生活支援コーディネーターを配置（委託）
  - ・各地区高齢者あんしん相談センター管轄圏域に協議体を設置

⇒生活を支える仕組みづくりを推進

### 在宅医療・介護連携推進事業

- ▼平成24年度～
  - ・多職種連携会議（現いぬやまあんしんネットワークの会）を開催
- ▼平成29年度～
  - ・犬山市在宅医療・介護連携推進協議会を開催
  - ・びーよんねっと（ICT）導入

⇒入退院と在宅生活の切れ目のない支援を推進

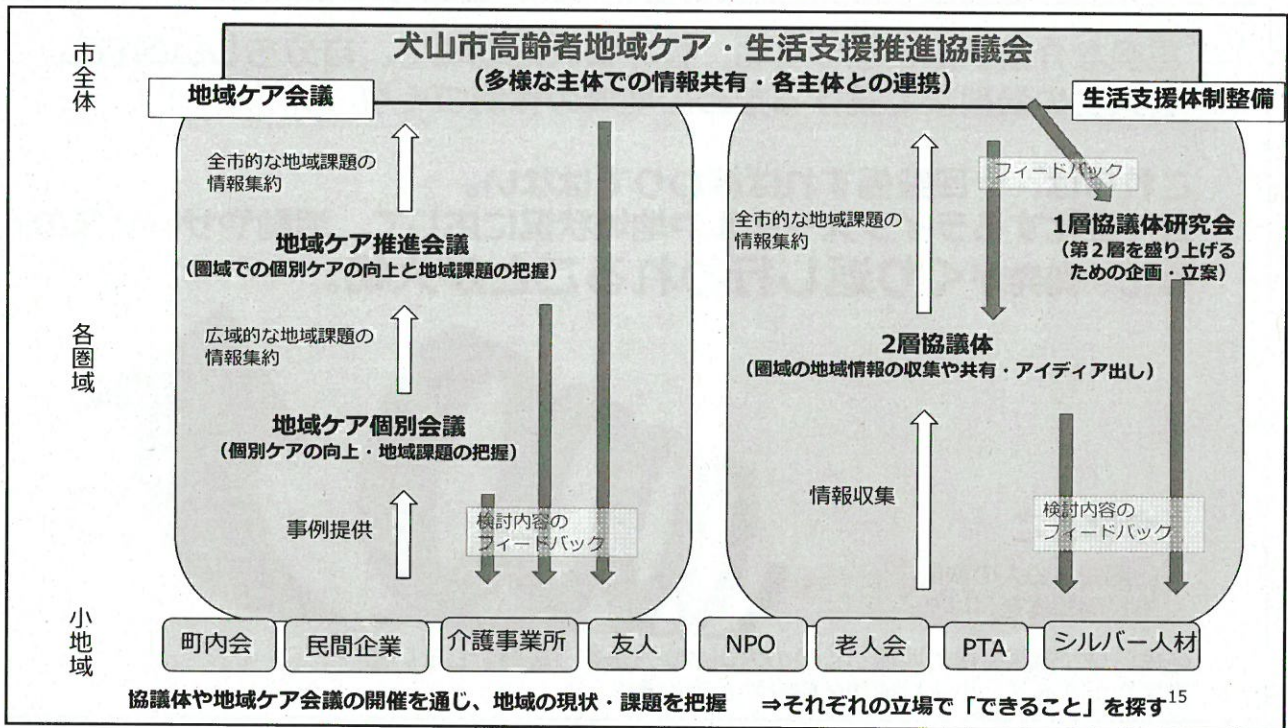
### 認知症総合支援事業

- ▼平成27年度～平成28年度
  - ・医師会と協働し、認知症相談を実施
- ▼平成29年度～
  - ・認知症初期集中支援チームを委託により発足
  - ・認知症地域支援推進員を各地区高齢者あんしん相談センターへ配置

⇒早期発見・早期介入の支援を推進

14





**犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会**

### 地域ケア会議

◆ **地域ケア推進会議**

地域の共通課題を関係者で共有し、解決を図るとともに社会基盤の整備の推進を目的とした広域的な会議の場。

＜平成30年度＞

- 日 時：平成30年7月17日(火)14:30～
- 参加者：高齢者あんしん相談センター、介護サービス事業所
- 課 題：高齢者の集いの場、ゴミ出し支援等

◆ **地域ケア会議（個別）**

個別ケース（困難事例等）の支援について話し合うことで、ネットワーク構築、自立のためのケアマネジメント実践力の向上、地域課題の把握などを行う場。

＜平成30年度＞

- 回 数：合計19回
- 参加者：高齢者あんしん相談センター、介護支援専門員、介護サービス事業所、民生委員・児童委員等（ケースにより異なる）
- 課 題：認知症高齢者の見守り等

## 生活支援体制整備

### ◆1層協議体研究会



企画  
アイデア出し

### ◆2層交流会



継続の励み  
他地域への波及効果

### ◆2層協議体



アイデア出し



情報交換

### ◆生活支援コーディネーター活動

資源発掘



人と人をつなぐ

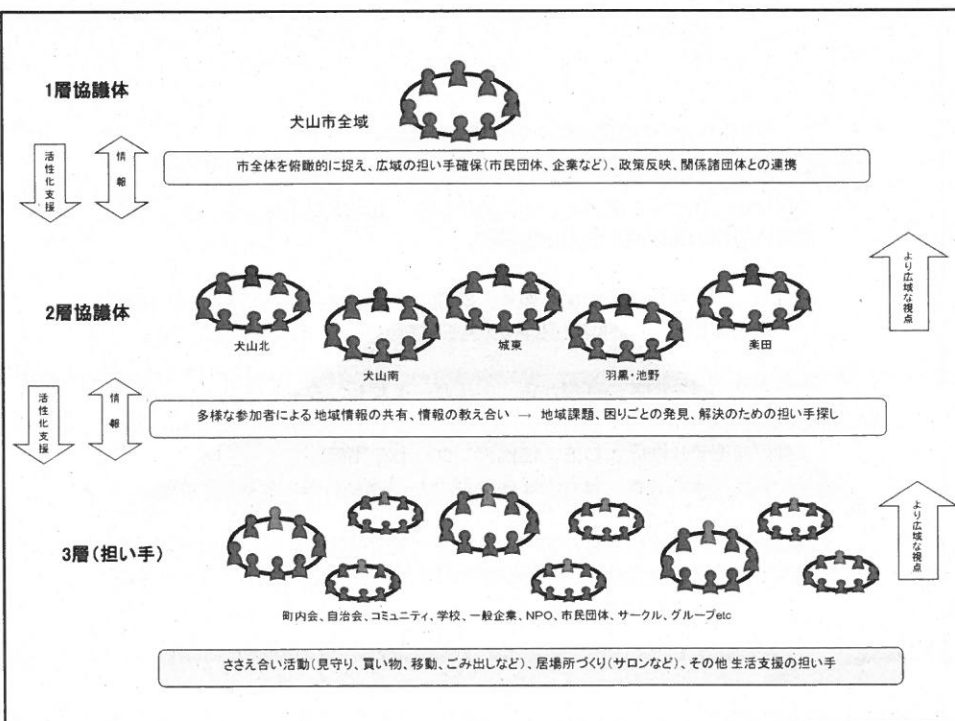




# 資料 2

## 生活支援体制整備事業の進捗

犬山市生活支援コーディネーター  
河村 政徳



## 犬山北地区 協議体



開催頻度：毎月1回 第3木曜日 AM10:00～  
通算20回

参加メンバー：地域住民、民生委員、老人クラブ会員、  
社会福祉協議会職員、ケアマネジャー、民間事業者、  
市民健康館保健師 等

## 犬山北地区協議体 での取り組み

- ・協議体の住民周知を広げたいとの思いから、北地区協議体のチラシを作成。地区内各所の掲示板にも掲示を依頼。
- ・城下町、本町周辺に駐車場が無く、医療・介護事業者が訪問する際に困惑するケースに対して、10件ほど短時間の駐車許可をいただける情報を収集。
- ・高齢者宅のゴミ回収の話題から、シルバー人材センターの活動内容を伺う。
- ・天神町をモデル地区として、住民アンケートを実施。  
アンケート報告会后、有志の住民が3か月に1度話し合いを続けている。
- ・協議体メンバーより今後、圏内の他地区（丸山地区等）で、住民アンケートや  
支え合いの活動を進めたいと希望があり協議体としてバックアップを検討。



犬山南地区 協議体



開催頻度：毎月1回 第4金曜日 AM10:00～  
通算19回

参加メンバー：地域住民、自治会、民生委員、介護事業所職員、  
社会福祉協議会職員、ケアマネジャー、市民健康館保健師 等



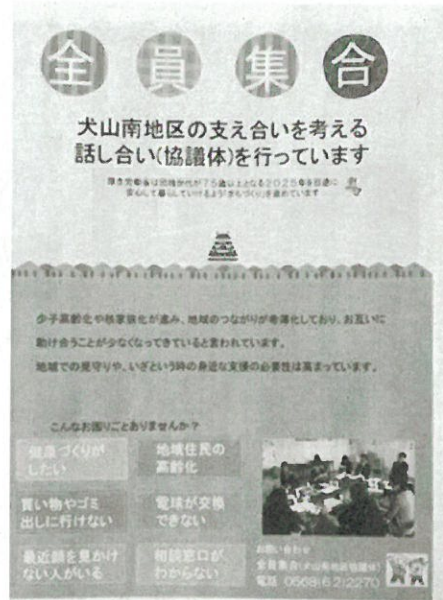
### 犬山南地区協議体 での取り組み

- ・協議体の住民周知を広げるため、南地区協議体のチラシを作成。  
『協議体』という名称を親しみやすくするため『全員集合』に変更。  
さらに住民周知のため、尾北ホームニュースに取材を依頼し、新聞掲載。
- ・南小学校の通学路と、高齢者のお散歩コースをマッチングし、見守り合えるように『お散歩マップ』を作成。協議体メンバーが南小学校に伺い、教頭先生に趣旨を説明。配布方法、活用方法を検討中。
- ・郵便局より地域貢献のため場所提供の申し出があり、地域の高齢者を対象に『絵手紙教室』を開催。
- ・地域住民より集会所を持たない地区で、サロンを発足したいとの希望があり、協議体でアイデア出し、9月26日に近隣の神社社務所を借りて、住民の意向を伺う集いの会を開催予定。



尾北ホームニュース 令和元年7月12日

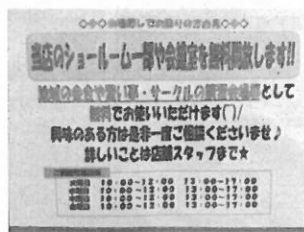
犬山南地区協議体のチラシ



郵便局での絵手紙教室



名古屋トヨペットでの体操教室



城東地区 協議体



開催頻度：6週毎 火曜日 AM10:00～  
通算12回

参加メンバー：地域住民、高齢者サロン世話人、主婦、市民健康館保健師 等





### 城東地区協議体 での取り組み

- ・協議体メンバーの制度理解。
- ・地区内の喫茶店に高齢者が集いサロン化していると聞き、情報収集。
- ・高齢化が進んでいる団地での買い物の問題に対し、移動販売を招致。
- ・コーディネーターが実際にコミュニティバスに乗車し圏内の路線を体験。  
協議体メンバーも、所属する老人クラブメンバーとともに体験乗車。
- ・協議体メンバーより今後、善師野台等で、住民アンケートや  
支え合いの活動を進めたいと希望があり協議体としてバックアップを検討。



### 羽黒・池野地区 協議体



開催頻度：毎月第3土曜日 PM1:30～  
通算20回

参加メンバー：地域住民、老人クラブ会員、自治会、婦人会、民生委員、  
介護事業所職員、民間事業所、高齢者サロン世話人 等



羽黒・池野地区協議体 での取り組み

- ・協議体の住民周知を広げるため、羽黒・池野地区協議体のチラシを作成。  
チラシを見て「協議体」に興味を持ち、新規参加される住民の方が複数名。
- ・尾張富士グリーンハイツの夏祭り復活。  
住民の高齢化が進み取りやめになっていた夏祭りを、再度復活させたいとの意向を聞き、他地区の情報収集やアイデア出し等、協議体で情報交換。
- ・高齢者サロンの場所が手狭になった主催者（ニッケ）と、地域貢献のため場所提供の申し出があった電気店（ベリーズホーエー）をマッチングし、地域の高齢者を対象に「予防教室」を定期開催。
- ・巡回型移動販売車の誘致。  
コーディネーターが偶然発見した移動販売業者を買い物困難な団地に誘致紹介。



羽黒・池野地区協議体のチラシ

羽黒・池野地区の みなさん ごまんじですか？

5年後、10年後の子ども達をみずけて、人と人をつなぐ  
みんなでお集りして楽しんでいる【お祭り】の思い出  
【協議体】が抱えています。

●協議体の方々の課題を解決する人々(地域・住民・若人等・子供など)が協力して  
交流の場を創っていきましょう！

取組んでほしい！

- ・生活で困っていること
- ・交流がほしいこと
- ・困りごとがない、困りごとを減らしたいこと
- ・交流がほしいが、自分たちだけで進めたいこと
- ・交流がほしいが、自分たちだけでは進めたいこと
- ・交流がほしいが、自分たちだけでは進めたいこと
- ・交流がほしいが、自分たちだけでは進めたいこと

これからは一人で悩まずに、困りごとをみんなで解決していきましょう！

【協議体】では様々なサービスを提供し、地域での交流の場を創っています。

●お問い合わせ先

【協議体】事務局 池野地区協議体センター  
（式山中央公民館）  
生活支援コーディネーター 堀内 早苗  
連絡先 0568-68-1635

生活支援センター（0568-68-1635）  
電話で「お祭り」について詳しく  
お問い合わせください。

ベリーズホーエーでの高齢者サロン  
「いきいきハツラツ予防教室」をマッチング



地元商店での井戸端サロン、  
ヤクルト、げんこつ体操など、  
企業や有志のマンパワーとサロンをマッチング



楽田地区 協議体

通算19回



開催頻度：毎月第1土曜日 AM9:30～  
通算19回

参加メンバー：地域住民、老人クラブ会員、自治会、民生委員、  
社会福祉協議会職員、高齢者サロン世話人、市議会議員 等

### 楽田地区協議体 での取り組み

- ・高齢化と近隣関係の希薄さが顕著なつつじヶ丘団地で、自治会（会長、副会長）、老人会（会長、副会長）、民生委員の三者会談を実施。地域の課題について話し合いが行われた。今後、住民アンケートの実施方法などを検討。
- ・勝部、焼野地区：高齢者サービスの説明会とコラボし、住民アンケートを実施。
- ・県営住宅に外国の住民が多く住んでおり、日系人高齢者の介護も増えてきたため、観光交流課、NPO（シイクルス）、訪問介護のヘルパーを含めて情報交換を実施。
- ・高齢化が進む西楽田団地で「ささえあいの会」が発足。自治会の下部組織と位置付け、買い物や庭木に選定などを住民間の支え合いで実施。



### 協議体の参加メンバーより

- ・なんとなく「協議体」というものが分かってきた。
- ・『協議体をもっとメジャーに』『参加している私たちも楽しくしたい!』
- ・関係団体とのつながり方を模索…。
- ・他の地区の「協議体」の進捗は？
- ・このあと、もう一歩先にすすめるには？

e t c …



2層協議体交流会 令和元年7月18日 エナジーサポートアリーナ



- ・各2層協議体の取り組み発表
- ・他地区の協議体メンバーとの交流、情報交換会
- ・さわやか福祉財団 長瀬 純治氏 講演、助言



（犬山）2層協議体交流会  
地域の課題つかみ  
支え合う仕組みづくり

誰もが安心して暮らせる地域へと支え合いの仕組みづくりをする犬山市5地区の協議体は7月18日、取り組みを発表して交流する2層協議体交流会を同市体育館で開きました。城下町や本町周辺に引続きないことが多い犬山地区では、高齢者が介護サービスを受けられる間に駐車場が不足するなどの課題が顕著です。市役所や住民に駐車場を貸与するなどの取り組みを推進し、空きスペースを有効に活用できるようにした取り組みを発表した協議体交流会

成瀬・池野地区で空き家を誘致して活用させる、事業所と連携したふれあいコーナードの設置、駅前型移動販売車設置などが発表されました。地域の課題を把握することから始めた各地域は、「住民中心の主体的な活動につながるため、もともと多くの人に協議体の活動を知ってもらい、支え合いの仕組みづくりを進めていきます。」



全市的な課題

- ・生活支援体制整備事業、2025年問題、地域包括ケアシステム構築に向けた住民周知を広める必要がある。
- ・既存の組織、団体との協働に向けた連携、申し入れの調整。



課題に向けての取り組み

- ・生活支援体制整備事業の周知、地域の社会資源との相互作用のため、「高齢者の集いの場」マップを作製予定。  
各地区担当のコーディネーターが地域情報を集約中。  
今年度内に発行予定。
- ・既存の組織、団体との協働に向け、現に「地域活動」をされている団体やマンパワーにスポットを当て、活動内容を発表していただくセミナーを企画準備中。



ありがとうございました





## 会議録

1 附属機関の名称

犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会

2 開催日時

令和元年9月2日（月） 午後1時30分から3時まで

3 開催場所

市役所 205会議室

4 出席した者の氏名

- |          |                      |    |       |
|----------|----------------------|----|-------|
| (1) 委員   | 岡田 和明                | 委員 |       |
|          | 石田 雅夫                | 委員 |       |
|          | 堀場 秀樹                | 委員 |       |
|          | 奥村 好樹                | 委員 |       |
|          | 松本 里美                | 委員 |       |
|          | 森岡 万朱衣               | 委員 |       |
|          | 矢島 幹弘                | 委員 |       |
|          | 深堀 万利奈               | 委員 |       |
| (2) その他  | 生活支援コーディネーター         |    | 河村 政徳 |
|          | 犬山北地区高齢者あんしん相談センター   |    | 藤田 清史 |
|          | 犬山南地区高齢者あんしん相談センター   |    | 大脇 由美 |
|          | 〃                    |    | 長岡 美月 |
|          | 城東地区高齢者あんしん相談センター    |    | 田中 仙尚 |
|          | 羽黒・池野地区高齢者あんしん相談センター |    | 熊崎 晋太 |
|          | 〃                    |    | 細川 早苗 |
|          | 楽田地区高齢者あんしん相談センター    |    | 勝 千鶴  |
| (2) 執行機関 | 健康福祉部長寿社会課           | 課長 | 吉田 高弘 |
|          | 〃                    | 主査 | 遠渡 美幸 |

5 議題

- (1) 犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会について（資料1）
- (2) 犬山市生活支援体制整備事業の進捗について（資料2）
- (3) 各団体からの活動報告等
- (4) その他



6 傍聴人の数  
0人

7 内容

事務局  
(吉田課長)

定刻になりましたので、令和元年度第1回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会を開催させていただきます。

今年度人事異動により、犬山市社会福祉協議会代表が松山委員より石田委員に変更になりました。石田委員よりごあいさつをお願いします。

石田委員

(あいさつ)

事務局  
(吉田課長)

ありがとうございました。

資料の確認。

- ①犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会次第
- ② " 名簿
- ③犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会について(資料1)
- ④生活支援体制整備事業の進捗(資料2)追加資料
- ⑤犬山市介護サービス事業所 追加資料

本協議会の委員10名のうち、加藤委員と原委員から欠席のご連絡を頂いております。8名の委員にご出席をいただいておりますので、本協議会の規定によりましてこの会議開催の要件を満たしておりますので本協議会が成立することをご報告します。

また、本日は傍聴人はおりません。なお、議事録はホームページで公開させていただきます。

それでは、規則により本日の協議会議長を岡田会長にお願いしたいと思います。

岡田会長

皆さんこんにちは。

昨年12月にこの協議会が設置され、それぞれの団体、組織の代表の立場で、事業の推進に向け、ご活動・ご活躍いただきましたことを感謝申し上げます。

本協議会や我々が目指す「住み慣れた町でいつまでも自分らしい生活が続けられる地域づくり」ということについては、高齢者だけのことではなく、どの世代においても重要です。

本日もそのような観点から議事を進めさせていただき、また、それぞれ地域において地域力が増すことが大事だと思っておりますのでよろしくお願いします。この会議は結論を求めるものではありません。事業進捗状況をお聞きした後、皆さまからのご意見や各団体・各地域での取り組みをご紹介いただき、その中で見えてきた課題等を

共有することによって、地域づくり・町づくりに繋げていきたいと思っています。今回は高齢者あんしん相談センターの方も同じテーブルについていただきました。直接地域と関わっているセンターの方と、同じテーブルにて話をし、実のある会議にしていきたいと思います。

本日は3時を終了時刻としておりますので、ご協力お願いします。前回会議にて、会議録署名は名簿順と決まりましたので、本日は石田委員、堀場委員にお願いしたいと思っております。

また、前回まで副会長を務めていただいた松山委員が、犬山市社会福祉協議会事務局局長を退任されましたので、改めて副会長を選任する必要がございます。副会長選任につきましては委員の互選になっておりますがいかがいたしましょう。

私の意見ですが、よろしければ先ほどご挨拶いただきました石田委員に副会長職をお願いしたいと思っておりますがどうでしょうか。

(異議なし)

それでは石田委員よろしくお願い致します。

では、協議事項に入りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局  
(遠渡)

長寿社会課の遠渡です。

(資料1説明)

- ・犬山市の人口は減少傾向、高齢化率は増加(最新の高齢化率28.7%)。
- ・昨年10月以降、前期高齢者より後期高齢者が多くなった。
- ・要介護認定者数が増加、介護サービス給付費の増加。
- ・高齢者のニーズは、専門職が支援しなければならない特別なことではなく、掃除・洗濯・買い物などの生活の中のニーズが多いことが見えてきた。
- ・終末期は多くの高齢者が自宅で介護をして欲しいと回答。
- ・2人に1人を支える時代が来たとしても、支えられる高齢者が健康でいること、高齢者が支える側としても活躍してもらうことが大切。
- ・要介護状態になったとしてもこの犬山市で住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続ける「地域包括ケアシステムの構築」が最終的な目的。
- ・国は地域包括ケアシステムの構築のために事業を法律に位置付けた。
- ・当協議会は生活支援体制整備事業と地域ケア会議について話し合う場。他の会議では別の切り口で話し合っているが、目的はどれも地域包括ケアシステムの構築。
- ・整備事業は1回整備すれば終わりではなく、この先も活動やサービスの強化や開発が繰り返し行われていくもの。
- ・協議会では市全体としてとりくまなければならないことを話し合う場。検討内容を地域の団体に指示してやらせるというものではない。
- ・まだ課題が見えてきていないのが現状。当協議会の位置づけについて理解を。
- ・地域ケア個別会議は、高齢者あんしん相談センター、介護サービス事業所、民生委員、地域住民等が個別ケースについて支援方法を話し合う場。会議を重ねることで地域の課題が見えてくる。昨年は19回しか開催していないので地域の課題がまだ

見えてこない。

- ・地域ケア推進会議は、広域の課題を関係者で共有。昨年は1回、高齢者の集い場やゴミ出し支援などについて話し合った。

続いて資料2について生活支援コーディネーター河村さんより説明をお願いします。

生活支援コ  
ーディネー  
ター河村氏

(資料2説明) 生活支援体制整備事業について。

- ・国は第1層～3層の圏域にて重層的に地域支援の担い手を作っていくことを想定。現場で担い手となる第3層の活動がとて大切。
- ・本日の協議会は第1層に位置付けられるもの。広域の課題検討が必要な時に、委員の皆さんと協議していきたい。
- ・第2層協議体が中学校区ごと(犬山北・犬山南・城東・羽黒池野・楽田)に設置され、地域住民の積極的な参加のもと、地域情報の共有を行っている。
- ・「協議体」という名前がなかなか受け入れられないと感じる。

<犬山北地区>

- ・車山蔵を借りて協議体を開催。通算20回。
- ・協議体の周知をしたいという思いから、チラシを作成。地域住民でチラシデザインができる方をお願いし作っていただいた。地区内掲示板に掲示。
- ・城下町周辺に駐車場が少ないという地域課題があがり、医療・介護サービス事業所に、駐車場提供に協力しても良いという地域住民を10件ほど見つけることができた。
- ・シルバー人材センターがゴミ回収事業を行っている情報を得て、協議体に来ていただき話を聞いた。
- ・天神町をモデル地区としてアンケートを実施。その後、アンケートの報告会を経て天神町有志による話し合いの場が発足。3ヶ月に1回、集会場にて町内の見守り等について話し合っている。
- ・協議体メンバーが住む丸山地区で住民アンケートや支え合い活動を進めたいという希望があり、協議体としてのバックアップ方法を検討中。

<犬山南地区>

- ・トヨペットの会議室を借りて協議体を開催。
- ・住民周知のためのチラシを作成。協議体という名前を「全員集合会議」に変更し、親しみやすくした。尾北ホームニュースにも協議体の掲載依頼を行った。
- ・南小学校の通学路と高齢者の散歩コースをマッチングし、お互いに見守り合えるよう散歩マップを作成。協議体メンバーが南小学校教頭に主旨を説明。マップ配付方法や活用方法を検討中。
- ・犬山南地区は高齢者の集まる場が少ないという特徴があったが、郵便局から場所提供をしたいと申し出があり、地区住民を対象とした絵手紙講座を開催。
- ・地域サロンを作りたい団地があったが、集会場が町内にないという問題があった。協議体でアイデアを出し合った結果、9/26に近くの神社の社務所を借り、住民を集め、今後の集い場に関して議論できる場を設けることとなった。

#### <城東地区>

- ・お寺の庫裡を借りて協議体を開催。毎回、制度のおさらいをしている。
- ・喫茶店に高齢者が集いサロン化しているという情報知り、コーディネーターが実際に現場に向かい情報収集をした。
- ・高齢化が進んだ団地での買い物の課題があがり、移動販売を誘致した。
- ・コーディネーターがコミュニティバスに乗車し圏内路線を体験した。乗り心地なども乗ってみて初めて分かった。
- ・高齢化が進んできた善師野台にて、住民アンケートやささえ合い活動を進めたいという希望があり、協議体としてのバックアップ・協力方法を検討中。

#### <羽黒・池野地区>

- ・喫茶店の一室を借りて協議体を開催。地元企業の電気屋さんも参加。
- ・住民周知のためのチラシを作成。チラシを見て興味を持った住民が新規で参加。さらに参加した方が町内会の方を連れてくることもあった。
- ・尾張富士グリーンハイツにて廃止になった夏まつりを復活させたという情報を聞き、協議体の中で他地区の情報共有やアイデア出しを行った。実際に夏祭りが復活した。
- ・高齢者サロンの場所が手狭になり困っていた事業所と、場所提供をしたいという企業をマッチングし、企業店舗内で高齢者ための教室を定期開催することになった。
- ・コーディネーターが、偶然発見した移動販売車に声をかけ、地域に繋いだ。
- ・地域を回る中で、八百屋の店先で住民が椅子に座りお茶を飲んだりお菓子を食べたりする井戸端会議サロンが出来ていることを発見した。
- ・羽黒地区婦人会がサロンを手広く実施しており、そのサロンへヤクルトや体操先生を紹介するなどのマッチングを行った。

#### <楽田地区>

- ・去年は名古屋経済大学講堂を借りていたが、現在は勤労青少年ホームにて協議体を開催。
- ・高齢化と住民関係の希薄化が顕著なつつじヶ丘団地の住民が協議体に参加。住民アンケート等の希望がある中、自治会長や老人クラブ役員で話し合いをしていくこととなったと報告。
- ・勝部・焼野地区の住民が協議体に参加。高齢福祉サービスの講義と併せて住民アンケートを実施したと報告。
- ・楽田県営住宅に外国人住民の方が多いという現状や住民トラブルなどの課題があがったため、外国人高齢者の看取りを行ったヘルパーさんや市役所観光交流課職員やシェイクハンズさんに協議体にご参加いただき情報交換を実施。
- ・西楽田団地の住民が協議体の参加。支え合いの会が発足したと報告。

事業が開始し、多いところだと20回程度協議体を重ね、なんとなく協議体の意義が分かってきたという言葉をよくいただきます。協議体をもっとメジャーにし、参加している私たちももっと楽しみたいという声も聞かれるようになりました。また、既に地域活動をされている方たちとどのように繋がっていくと良いのかという話題もで

ています。

<その他の動き>

- ・昨年度同様、7/18にエナジーサポートアリーナで第2層協議体交流会を実施。取組発表、さわやか福祉財団長瀬氏の講義、意見交換会を行った。
- ・地域包括ケアシステム構築の必要性について住民周知を積極的に行っていくこと、既存組織・団体とうまく協働していくことの必要性を感じている。
- ・事業や社会資源の周知のため、高齢者との集いの場マップを作成予定。地域サロンに限らず、体操教室や書道教室、喫茶店なども掲載していきたい。
- ・既に地域活動をしている団体などに活動内容を発表していただき勉強させていただくようなセミナーも企画していきたい。

岡田会長

では資料1についてご質問・ご意見等がありますか。

特になければ、今後出てきた際に事務局にお問合せください。

次に資料2についてご質問・ご意見等ありますか。

前回よりかなり事業が進んでいるという印象がありました。良い点のみの発表でしたが、実際には様々なご苦労があり、この協議会としてどんな協力出来るかを話すことができると思います。各団体における活動の中で、協働し進めていくことができるような話などがありますでしょうか。

高齢者あんしん相談センターの方、現場のお話をお聞かせいただけませんか。

城東地区高齢者  
あんしん相談セ  
ンター田中氏

従来は、地域課題などがあると議員さんに相談し、議員が議会に話を出して政策が決まるという形がありました。しかし、新しい事業においてはボトムアップという形で、まずは地域で課題を検討しそれらを上へ上げ、市政に反映するということとなります。今までの流れと全く違うので、進めていくのがとても難しいということをよく市担当者と話をしています。市民側から出た課題や話し合った内容が市政に反映となるとなかなか難しいですが、次期介護保険事業計画などに1つでも反映されると良いと個人的には思っています。

岡田会長

ありがとうございます。市民の声を伝えるという意味でもこの協議会があっても良いと思いました。いろいろご提案していただければと思います。

北地区高齢者あ  
んしん相談セン  
ター藤田氏

犬山北地区では天神町をモデル地区として住民アンケート実施し、その後3ヶ月に1回市民が自主的に集会場に集まり話し合いをしています。資料1では高齢者は家事援助の希望があるとアンケート集計で結果が出ていましたが、天神町においては安否確認の必要性、安否確認のための出かける場所の必要性という話が出ています。しかし、安否確認を実施する前段階に個人情報の問題や隣同士の関係性が希薄であるという問題があがり、実施が難しいという話になっています。

集いの場については、私たちセンターが場所を探したり、場所提供者とマッチング

していくこともしていきますが、空き家情報や各団体からの場所提供などがこの会議を通して少しでも聞けると第2層の動きもかなり変わってくると思います。集いの場は非常に大事で、安否確認の場としても有効です。支えてほしいという高齢者も、安否確認程度であれば担い手として活躍できるという方もいますので、そのような場で地域の支え合いができていくのではないかと思います。

岡田会長

高齢者の方との話し合いの場は持ちやすいけれど、それを支えてくださる団体との最初のマッチングがなかなか難しいということですね。

北地区高齢者あ  
んしん相談セン  
ター藤田氏

そうですね。現状では団体の方の声を全て自分たちで探しに行かなければ分からないので、それが少しでも把握できると地域での集いの場が増えるきっかけとなるのではないかと考えています。

岡田会長

NPOシェイクハズさんの方では、そのあたりのお考えはありますか。

松本委員

NPOの活動というのは一つの目的に沿って活動をしています。例えばシェイクハズだと外国人の子どもの支援が目的です。最近、子どもたちが、地域の高齢者と繋がり、その方の指導の元で畑を始め、顔なじみの関係になっていきました。今まで、子供たちの支援は地域の支え合いという活動と少し目的が違うと思っていましたが、子供たち支援だけをしていても子供たちの支援にならないということを感じました。地域の方に活動を知ってもらうこと、地域のことをもっと知りこれから共に支え合うことが大切であると思いました。私たちも周知不足もあり、NPOは何をしている団体かということが地域に認知されていないです。NPO自身はその任務や目的を地域の皆さんにきちんとお知らせし、地域と共に活動をしていかななくてはならないと思っていますところでは。

深堀委員

私は20年程前からホームヘルパーで訪問介護もしておりました。介護保険制度が始まると、ホームヘルパーとして、できること・できないことがはっきりと分かれ、相談は受けるけれど話を聞くだけで終わってしまうということがしばしばありました。家族の方からも、気持ちも分かってほしいというお声を聞きながらも、実際には何もできないというジレンマが自分の中でありました。また、民生委員も15年程やらせていただきました。その活動の中でも、色々な話を地域の方にお聞きするものの、話を聞く以外何も出来ないことがしばしばありました。例えば、買い物に困っていると住民から相談されても、実際に私が車に乗せて団地の全ての方を買い物に連れて行くことは出来ません。しかし、今活動をし始めたこの協議体では、買い物に困っている人がいるという情報を話すと、移動販売をやりたい企業の情報をコーディネーターが教えてくださり、思いがマッチングし実際に団地に移動販売が来るようになったということが起きています。団地の方も本当に助かったと言っていました。地域の悩みを聞いたとしても私は一人では何も出来なかったことが、この協議体では解決が出来るということがあるということを実感しています。

城東地区はとても広く、コミュニティや民生委員さんなど色々な方に同じように理解していただき、ご協力いただくこととても難しいと感じています。どのように事業の説明をしていくと良いのかコーディネーターと話しをしていますがとても難しいです。そこが課題だと思っています。

まずは身近なところから始めようと思い、私の団地にあるサロンの方に協議体の存在を伝え、協議体に参加していただいております。サロン立ち上げ当初は60～70代だった皆さんも15年が経ち、現在80代の方です。その方たちは「自分たちは支えてもらうばかりだ」と話されていましたが、この協議体に参加し、話をしてくださるだけでも支え手として存在感があるんですよと伝えました。また、団地の住民が実際に何に困っているのかを直接聞いてみないと分からないということで、犬山北地区でのアンケートを参考に実施しようと思っています。

サロン活動に協力的でなかった団地の方もいましたが、その方たちにも協議体の事を伝えました。困っている人がいる、でもそれを実際に私が支えるのではなくて、誰か支えてくれる人はいないか協力者を探すというのが協議体なんだと自分は理解したと伝えると、その方が賛同してくださり協力しましょうと言ってくれたのが嬉しかったです。そういった形で少しずつ皆さんにご協力いただきながら進めていきたいと思っています。

岡田会長

各団体より活動報告やご意見も出始めているので、議題3に入ります。  
事務局よりお願いします。

事務局  
(遠渡)

この会議において地域の課題を話し合う前段階として、各団体がどんな活動をしているのかという紹介や、地域づくりにおいてご協力して頂ける部分などをお聞かせいただけると幸いです。

矢島委員

犬山市介護サービス事業者協議会の矢島です。追加資料は私たちの会の資料です。私たちは犬山市内で介護保険事業に携わる33法人65事業所が参加している協議会です。会にはケアマネ部会、訪問部会、通所部会、施設部会、福祉用具部会の5つの部会があり、それぞれが職種ごとの専門的な研修開催や、横の繋がりをつくる活動をしています。同じ種類の事業所であっても以前は横のつながりが希薄で、誰が何をしているのか分からない状態でした。介護保険制度設立当初は、社会福祉協議会が不定期に連絡会を開催していたようで、その後市役所の声かけにて実施した協議会ができ、その後平成27年度から現在の形で自主運営している組織になります。

介護サービス事業者は、犬山市が実施する総合事業サービスと全国共通で実施する介護保険サービスの両方実施していることが多いです。介護の最前線で働いている事業者の集まりなので、地域課題などが直接上がってくる所にいます。本日の資料には、最近の出てきた地域課題を書きました。訪問介護の不足化が顕著、ゴミ出しが介護保険サービスだけではうまくいかない、などの声がケアマネージャーから上がっています。深堀委員からもありましたように、介護保険サービスではできないことがはっきり決まっています。現場の努力だけでは解決ができないので、地

域の力を借りないと上手く支援ができないことが必ずあります。そのような課題を介護保険事業に携わる者からの声として上げ、ここでの議論に役に立てただけならと思います。

例えば、犬山市のサービスにおいては通所系サービス送迎時にバスストップ形式は認めないというルールがあります。そのため、近所までなら出ることができる人がいても家の前まで送迎するということができません。もしバスストップ形式が認められれば、送迎もスムーズになり、地域で集いの場が1個増えることにもなります。こういった細かなことだけでも色々あると思いますのでまた皆さんの議論にお役立ていただければと思います。

岡田会長

ありがとうございます。介護サービス事業者協議会としては第2層の協議体とどのようにかかわりを持って行くのでしょうか。

矢島委員

介護保険制度の中で介護サービス事業者と高齢者あんしん相談センターとの接点は濃密にあります。しかし、地域づくりを推進しているセンターとはまだまだ接点がないので、今後はそういう視点になっていくと思います。

堀場委員

シルバー人材センターの紹介をします。皆さんのイメージは草刈りや剪定など男性会員のイメージかと思いますが、現在、犬山市シルバー人材センター会員は800名程の内500名が男性で残300人が女性会員です。目につきやすい外の作業は男性会員が中心で行いますので男性会員のイメージが強いかと思います。女性会員には部屋の掃除等の家事援助などのお仕事をいただいています。

シルバー人材センターと会員の間には雇用関係は一切ありません。仕事の依頼があると会員へその仕事の紹介業務を行うのみで、基本的に会員が個人事業主のような位置づけでお仕事を実施しています。

昨年末実績として家事援助は137件の受注があり、昨年までは時間単価720円、今年度から1,000円で仕事をしています。380万円位の経費をいただき、会員へ配分金としてお渡しをしている状況です。家事援助を登録している会員は55名で、そのほとんどが女性です。掃除以外にも買い物援助、ゴミ出し援助、花木への水やりなどもしています。ただ、女性会員は全ての方が車を持っているわけではないので、依頼主の近くに会員がいれば対応ができますが、いない場合は依頼をいただいても対応が来ていない実状があります。

国の施策では男性の定年延長などの話が出ていますが、例えば70歳まで男性がお勤めになった後に、シルバー人材センターでお仕事を始めると言ってもなかなか難しいのではないかという話になってきます。そうなれば今実施している剪定や草刈りという仕事は将来的にはシルバー人材センターの仕事ではなくなるかもしれません。シルバー人材センターとしての存続を考えると、女性にもどんどん会員登録していただき、様々な仕事を提供しく環境づくりが今後必要になってくると思います。

岡田会長

リピート率は高いですか。



堀場委員

リピーターが多いです。特に清掃業務などは、出来ないからお願いしたいという方なので、1回だけで良いのかというとそういう訳にもいきませんので、清掃を定期的に希望される方が多いのが現状です。また、一度良さを感じて他の業務も依頼したくなるケースもあるようです。

奥村委員

商工会議所の奥村です。様々な団体の方が本日おみえですが、初めて団体の活動を知ったところもありました。

商工会議所は、地区の商工業者が改善発達を図ることを目的としていますが、もう一つ、社会一般の福祉の増進に寄与するというのが目的として掲げられています。これは経済法の中の商工会議所法に定められています。経済産業省からの認可法人という形です。医療法人や宗教法人も含まれます。商工業者の数は市内で2,314件ですが、会員が1484件、約64%が会員です。ただし、私共は会員・非会員問わず、地域の発展のためにいろいろな業務についての相談にのっています。高齢者分野に関しても、相談等があれば、社会一般の福祉の増進のために市に対して要望を出すこともしますのでお気軽にご相談ください。

先程話のあがった移動販売業者も、実は私共にも相談がありました。運営面がとてもしっかりしているので、スポンサー企業の紹介や商工会議所便りにて周知するなどの協力しました。

道で声をかけた移動販売車というのはどこの業者でしたか。

羽黒・池野地区高

齢者あんしん相談

センター細川氏

個人で経営されている移動販売車です。たまたま通りかかった際にお声をかけました。

奥村委員

特定の業者への営業活動にはご協力はできませんが、公益的な方に対しては商工会議所としてフォローができます。商工会議所は全国どこも同じような組織で、同じ目的のもと活動しています。日本全国で514の会議所があります。

まだ地域づくりにどのように協力出来るか分かりませんが、ご協力できる場所があればしていきたいと感じたところです。

岡田会長

協議体の活動報告においても地域企業の協力に関する報告もありましたが、これから企業の社会貢献も重要になってくると思います。先程1,484件会員がいるという話もありましたが、実は名古屋経済大学も一会員です。奥村委員が話されていたように、大学でのイベントなどを商工会議所便りと一緒に配付していただいています。公益な文書でしたら配付可能ということでしたので、毎月1回会員に配付する便りと同封しての配付も協議体周知活動に利用されてはどうかと思いました。

石田委員

高齢化率の増加の話がありましたが、ケアマネジャーやホームヘルパーの話を知ると、掃除、洗濯、買い物、食事の準備などのニーズが高いということを知ります。社会福祉協議会も訪問介護を実施しています。高齢者の方が顔なじみのヘルパーに依頼し

たいと思われるのは当然あると思いますが、職員の数も減り、猫の手も借りたいと言う状況にあり、需要と供給のバランスが悪くなりつつある現状があると感じています。

岡田会長

森岡委員、コミュニティとしてどのように関わっていくのかということを含めお話しただけませんか。

森岡委員

楽田コミュニティは今年度設立 23 年目になります。今までは子供たちのイベントを主に実施していましたが、高齢者人口が増加し、何とか力になりたいと 3 年ほど前から高齢者向けのイベントを実施するようになりました。2 年前には高齢者向けの子供食堂のような事業を実施しました。その事業はワンダフルホームというもので、毎月第 2、4 金曜日 16 時から 20 時までの間、食事の提供を行っています。一人暮らし高齢者も、母子家庭・父子家庭の方も、子供たちだけでも来ることができます。開始して 1 年が経ちました。当初は 40 名位からスタートしましたが、今は様々な年齢の方、様々な境遇の方が 100 名近く来て来てくれています。高齢者の方は早い時間に来られ、家族連れは両親が仕事の終わる 18 時過ぎに来られることが多いです。また、コミュニティでは青色パトロール車を持っていますので、高齢者の方をお迎えに行くことも検討しています。

また、各年齢の子供たちが高齢者に対して何か役に立つことができないか、子供と高齢者を繋いでいくということも考えています。例えば、小学生でしたらおじいさん・おばあさんへ“行ってきます・ただいま”の挨拶、中学生でしたらゴミ出し、高校生でしたらお掃除や家の周りの片付け、大学生でしたら買い物支援位はできるかもしれません。年代毎、学校毎で繋いでいこうと考えています。

先ほど、シルバー人材センターの方から女性会員を増やしたいというご意見を聞きましたが、現在個人活動として歌声広場という事業を小牧市含め 8 か所で実施しています。会員が 400 名程います。カラオケやコーラスとは違い、勝手に来て歌をリクエストし、歌いたいものだけ歌うという感じ参加してもらっています。まだ元気な方もたくさんいるので、シルバー人材センターのことを勧めていくことができれば繋がっていくのではないかと思います。

実は私も犬山市商工会議所に入っていました。今は脱会してしまったのですが、私たちのようなコミュニティ協議会でも何か相談すればお力になっていただけるのかなと感じました。ワンダフルホームも企業の協賛金などを募り運営をしていますのでご相談ができると良いなと思いました。今日は来て良かったです。

松本委員

私たちは子供たちの支援をしているので関係ないと最初は思われるかもしれませんが、何か糸口があるかもしれないので聞いてください。

<NPO シェイクハンズ活動紹介>

- ・ 2009 年に法人化し、外国人の子供たちの支援を実施。
- ・ 外国人の人口比率は約 3.9%、近隣では小牧市に次いで多い。
- ・ 実態が見えない部分もあるが、0 歳から高校生卒業までで 160 人前後の外国人の子供たちが犬山市に住んでいる。

- ・日本語の修得不足による学業不振、文化の違いによる孤立化、経済的問題。
- ・保護者自身が子供も困り事を把握できていない。
- ・放課後の学習支援、子育て改革を目的とした親子対象としたサロンなどを実施。
- ・送迎の支援も併せて実施。
- ・第1・第三水曜日に夕焼けカフェという食堂事業を実施。
- ・ボランティアが少ないため、各子ども未来園に配置ができるように観光交流課とボランティア養成講座を企画。
- ・農園を地域の方に提供してもらったり、名古屋経済大学留学生に学習支援をしてもらったり、森岡委員の歌声広場などとも共に事業を実施。

私も外国人のためと思っていましたが、こういった支援が地域のためでもあり、外国人の子の支援でもあります。私たちも商工会議所の会員でもあります。NPOの世界だけでは狭い世界になってしまうので、皆さんと情報交換をしながら助けたいですし、また、お役にたてるかもしれないので今後ともよろしくお願ひいたします。

岡田会長

ありがとうございました。

今日は各団体の活動報告を出していただきましたので、各地区協議体においてネットワークを組む参考にしていただければと思います。

最近、学生と将来のことを話すと必ずAIの話題が出てきて、AIには適わない、人間の存在価値はどこにあるのかなどという話を聞きます。しかし、AIは計算式はできたとしても色々な判断が出来るのかというところではない、そこが一番大事なところだと学生に話します。「最近行ったりやーす?」「昨日行ってきたわ」など地域で繰り返されるその2人しか分からない会話がAIには判断できるのでしょうか。今後どれだけAIが発達したとしても、地域のことをよく知っている、いろいろなことを判断できる住民であり続けなければならないですし、それが地域づくりのベースだと思います。AIでは決して判断出来ないお互いが分かり合える、そして向かい合える地域がこれからも増えていけば良いと思います。

今日はこれで終わりたいと思います。

事務局

(吉田課長)

ありがとうございました。各団体活動について勉強させていただき、改めてそういった関わり合いの中でお互いが地域で支え合える体制を作っていきたいと思ひました。今後共ご協力をお願いしたいと思ひます。

以上 本日を持ちまして本協議会の方を終了させていただきたいと思ひます。

令和元年10月7日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)